

2025 年 1 月 9 日

The long-term patency and morphology of No-touch saphenous vein grafts
No-touch 法により採取した大伏在静脈グラフトの長期開存性と形態に関する研究

◆研究の目的と概要◆

狭心症や心筋梗塞に行う冠動脈バイパス術に使用するグラフト（代用血管）である静脈グラフトは動脈グラフトに対して開存率（治療後に再発なく開存を維持できる割合）が低いとの報告があります。しかし No-touch 法（静脈を採取する際に、周囲の脂肪組織を損傷させずに採取する方法）を用いて足の表面にある大伏在静脈から採取された大伏在静脈グラフト（No-touch SVG）は優れた成績が報告されています。日本における長期の成績や形態の報告はなく、未だ不明です。今回日本における長期成績と静脈グラフトの形態変化を明らかにし、No-touch SVG の有用性とその根拠を示し、その使用を促すことで、冠動脈バイパス術の成績向上へ繋げることを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2000 年 1 月から、2023 年 12 月までの間に、冠動脈バイパス術を行った方。

◆研究に使用される情報・試料◆

手術時年齢、性別、身長・体重、BMI、体表面積、喫煙歴、既往歴、これまでの治療経過、各種検査の結果、手術内容（手術時間、使用したグラフトの種類）、術後イベント、退院時の転帰、退院後の経過（外来での検査結果）、退院後のグラフト（代用血管）の CT や冠動脈造影検査結果

◆試料・情報の研究利用開始日◆

2025 年 2 月 6 日以降

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録（カルテ）等からの情報を利用します。

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。ただし、解析中または、既に学会等で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

心臓血管外科 研究責任者 菅谷篤史

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp（臨床研究センター）

（★を@に変換して使用してください）

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存試料を用いなければ研究の実施が困難であるとの理由が認められ、倫理的観点及び科学的観点から実施についての承認、また当院院長の許可が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法
（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明